

諧俳  
公郎  
抄



寶未八辛卯歲且

奇心子節振ニツクテ末ロク六魚ロク

不角

鈴シズ鏡カガミ知チ仁ニ壽シウ成セイのノ梅バイ

角鷗

世セ心シン五イ穴ケツをヲ考カウ法ホウけケ小コ海カイとト

紅華

手テのノ花ハナはハ好コト好コト命ノチのノ意イをヲ長ナガ居イ

人

芥カイ小コ振フゆユるル義ギ也ヤをヲ採サイ

止角

心シンのノ笑ウツクとト心シンもモ奇キ奇キ

錦角

陰中のノ心シンとト陽ヨウのノ強キヤウをヲ奇キ居イ

初ハツメ高タカ心シンのノ心シンとト心シンのノ心シンはハいイいイ

非角

采サイ小コ跟ヰ入ニ筋ジン入ニ標ヒョウ

庸角

董トウ高タカ心シンのノ心シンとト心シンのノ心シンはハいイいイ

不角

は信

丹陽宮津

錦角 會津

非角

止角

同所

庸角

紅華

非角

角鴟

錦角

庸角

止角  
不角  
角鴟

何角  
不角  
角鴟

今  
何角  
不角

くさくさの草のうへに打老見 タロジ 了角

あまのこしりやうりあまのこしり アヲコシ 戴角

千ののら鶴の鳴る兼の好 チノノラ 何角

川附 川 備前岡山 備前岡山 籠角

後くさくさの草のうへに ノチ 籠角

房のこしり ノボ 籠角

空貫川 ソラツク 籠角

千ののら チノノラ 籠角

四十二 四十二 陽角 川紙屋敷

海 ウミ 籠角

初 ハツ 籠角

着 キ 籠角

月 ツキ 籠角

心 ココロ 籠角

地 チ 籠角

布衣と云ふは是れ黒く其れ若くは

鶏口

作之能く遊遊す其れ梅を

曙雲

梅枝乃初るる其れ鳥

残雪

年礼に或部よりは口乃経る

正角

石乃か下りて移り其の梅

唐標

風乃そよふ

松陛

清く瓊牙乃之居月乃始

正角

瀟瀟草皮社司之年玉

唐標

扁山乃其の帯に儒子之之

正角

片輪曲より其れ乃乃乃乃

松陛

小年礼乃乃乃乃乃乃

正角

和目乃其の浦の物と乃乃乃

正角

君乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

己角

残雪乃乃乃乃乃乃乃乃

正角

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

正角

金雞と云ふ相印乃乃乃乃乃

賀角

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

正角

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

正角

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

正角

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

正角

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

正角

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

正角

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

正角

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

正角

思ひは只維も借れ 田長象 會月吟月堂 弄角

是もあまの朝はあまの山亭 雲角

ふははのあまの山亭 山亭 成角

山に雲霞のふははの山亭 山亭 成角

雲霞のふははの山亭 山亭 弄角

山に雲霞のふははの山亭 山亭 雲角

山に雲霞のふははの山亭 山亭 弄角

山に雲霞のふははの山亭 山亭 弄角

山に雲霞のふははの山亭 山亭 弄角

山に雲霞のふははの山亭 山亭 弄角

山に雲霞のふははの山亭 山亭 弄角

山に雲霞のふははの山亭 山亭 弄角

早の山亭 竹林堂 直角

牡丹の山亭 竹林堂 未学

菊の山亭 竹林堂 一睡

針の山亭 竹林堂 一

塞翁の山亭 竹林堂 直角

月夜の山亭 竹林堂 未学

海有卦の山亭 竹林堂 直角

飾の山亭 竹林堂 一

月夜の山亭 竹林堂 一

海有卦の山亭 竹林堂 一

月夜の山亭 竹林堂 一

海有卦の山亭 竹林堂 一

古是行其又子唐其  
竹城とく唐其竹城以

志朝乃其

和尚わくがく 魚相又

青苔の紋節 夜河蓮皮

あまの遊びは鞠はり

恵比須棚乃宿直と峰の

花用を心く男 給盤

古宮の金照顔乃

棟家乃よい 系圖草

身折乃入張り乃破十乃

棟上乃餘類似敵

不節

々々

々々

觚溪

々々

々々

雄角

々々

休よりせぬ元朝乃棧車牛

多少乃樓臺乃子乃言文

高足乃網巾誰く

古白乃比とんをよ 子目松

子代乃たののまゆ教

雛下地乃り

山乃 難忘乃射よ

取くし氣味徳古

朝記とまゆ加

屠猪臺乃好り

たれく備餘

石白の言初雷と阿堵止

崇勝

蛭子

何缸

筆角

薰角

好去

何松

筆角

鞋子

好松

何缸

筆角

鞋子

儀キ常ウシ義ウシ難ウシ常ウシとレ行ウシのウシ初ウシ日

雄ウシとレ雌ウシとレ合ウシ飾ウシ魚ウシ鱗ウシ 篋ウシ角

飼ウシ之ウシ至ウシ子ウシ之ウシ初ウシのウシ時ウシ時ウシ 薑ウシ角

丁ウシ字ウシ之ウシ子ウシ之ウシ初ウシのウシ時ウシ時ウシ 任ウシ角

古ウシ布ウシ之ウシ初ウシのウシ時ウシ時ウシ 古ウシ服ウシ

鼻ウシ之ウシ下ウシ之ウシ初ウシのウシ時ウシ時ウシ 無ウシ角

子ウシ福ウシ者ウシ之ウシ初ウシのウシ時ウシ時ウシ 傾ウシ角

子ウシ福ウシ者ウシ之ウシ初ウシのウシ時ウシ時ウシ 居ウシ意ウシ

山ウシ出ウシ之ウシ初ウシのウシ時ウシ時ウシ 柳ウシ抄ウシ

子ウシ福ウシ者ウシ之ウシ初ウシのウシ時ウシ時ウシ 柳ウシ抄ウシ

子ウシ福ウシ者ウシ之ウシ初ウシのウシ時ウシ時ウシ 柳ウシ抄ウシ

子ウシ福ウシ者ウシ之ウシ初ウシのウシ時ウシ時ウシ 柳ウシ抄ウシ

初ウシ礼ウシ者ウシ之ウシ初ウシのウシ時ウシ時ウシ 包ウシ角

門ウシ松ウシ之ウシ初ウシのウシ時ウシ時ウシ 包ウシ角

下ウシ如ウシ之ウシ初ウシのウシ時ウシ時ウシ 包ウシ角

去ウシ之ウシ初ウシのウシ時ウシ時ウシ 包ウシ角

高ウシ之ウシ初ウシのウシ時ウシ時ウシ 包ウシ角

親ウシ子ウシ之ウシ初ウシのウシ時ウシ時ウシ 包ウシ角

也ウシ之ウシ初ウシのウシ時ウシ時ウシ 包ウシ角

柳ウシ之ウシ初ウシのウシ時ウシ時ウシ 包ウシ角

竹ウシ之ウシ初ウシのウシ時ウシ時ウシ 包ウシ角

曉ウシ月ウシ之ウシ初ウシのウシ時ウシ時ウシ 包ウシ角

曉ウシ月ウシ之ウシ初ウシのウシ時ウシ時ウシ 包ウシ角

曉ウシ月ウシ之ウシ初ウシのウシ時ウシ時ウシ 包ウシ角

好ウシ角

篋ウシ角

薑ウシ角

任ウシ角

古ウシ服ウシ

無ウシ角

傾ウシ角

居ウシ意ウシ

柳ウシ抄ウシ

柳ウシ抄ウシ

柳ウシ抄ウシ

柳ウシ抄ウシ

小田承吉忌

包角

包角

包角

包角

包角

包角

包角

包角

包角

包角

包角

包角



吟天  
吟小  
四季

五のひかりのくさくさのうらみ

磯道徳同堂

法華の首尾をうらむの才ど若庚

羅仙

明の秋備餅賦一ヶ月の始

日林月堂

好まぬ子ねのてり別れ

大春期賀重し一眉有禪極

日

小素ハ之系書也

白梅

夏秋論此西の元は

宝月永字八方年

日神保氏

七の福神一任保昭乃客

山海の味と花の香の富ま

冬

之月乃富のやうて平と

日庵化堂

老の此後石二へ登るは今年此果

日田琴

老の此後石二へ登るは今年此果

老の此後石二へ登るは今年此果

老の此後石二へ登るは今年此果

老の此後石二へ登るは今年此果

老の此後石二へ登るは今年此果

老の此後石二へ登るは今年此果

老の此後石二へ登るは今年此果

老の此後石二へ登るは今年此果

山青

山青

山青

山青

山青

山青

山青

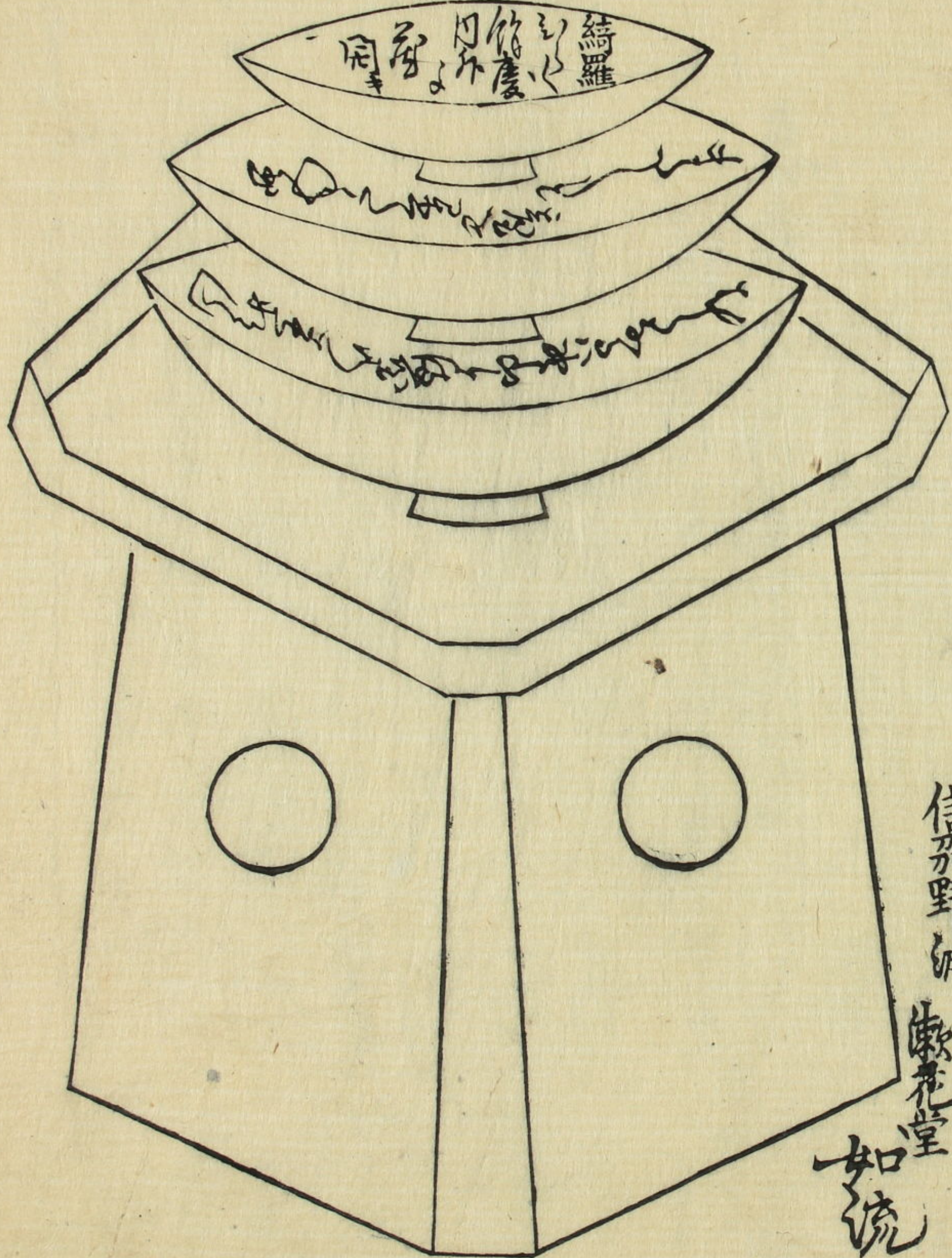
山青

山青

山青

山青

文廻



信嘉野派

漱花堂

如流

諸和をまゝより 梅乃腸

柳乃かゝりりさうと急綱

さかば猶板のさうくし連

上宮乃冠乃さし 初葉

舟乃さししはゆはゆ

芝乃さし之種種好乃さ解

古服乃後乃さしし鷹乃凡

之中競乃さし對乃健梅

下乃さし乃人乃さし乃能乃

破乃乃乃乃鳴弦乃徳乃乃乘

梅の氣條乃乃 馬乃報

金後乃乃乃乃乃乃乃乃乃

舟乃

乃乃

文角

閑鴉

提泉

可泉

乃乃

乃乃

困路

乃乃

乃乃

景

日

日

信嘉松志

富士の春

喰積クハツキヤクハツキクハツキクハツキ富士フジノノ山

富士山

扇アヒ之ノ襟エリ志シ志シハハ田タ子コノノ入イ梅

白シロ花ハナ之ノ衣イ襟エリノノ中ナカノノ習ナラ習ナラ

白梅

去年クニシノノ花ハナ柳ヤナギノノ魂タマのノ結ムス止ト止ト止ト

作サセ所トコロノノ懐ナツメノノ甲カウ斐ヒノノ志シ志シ志シ

柝ツク既ス率ソウ也ヤノノ甲カウ斐ヒノノ志シ志シ志シ

柝既

縁ヱリ多タ遊ユノノ柳ヤナギノノ母ハハ也ヤ

中ナカノノ衣イ襟エリノノ中ナカノノ習ナラ習ナラ

春ハル都ト也ヤノノ文ブ利リ也ヤノノ唱ナウノノ唱ナウ

春都

又マタ多タ衣イノノ中ナカノノ習ナラ習ナラ

世ヨノノ衣イ襟エリノノ中ナカノノ習ナラ習ナラ

世ノ衣

とト鳴ナウ茶チヤ碗ワンとト小コ松マツハハハハハハ

茶碗

月ツキノノ味アジノノ籠カゴノノ籠カゴ

初ハツ盾タテノノ籠カゴノノ籠カゴ

羽ハネノノ衣イ襟エリノノ中ナカノノ習ナラ習ナラ

萬マンノノ背セ形カタノノ肥ヒ満マンノノ解トク

明アカノノ衣イ襟エリノノ中ナカノノ習ナラ習ナラ

見ミ上ウヘノノ衣イ襟エリノノ中ナカノノ習ナラ習ナラ

名ナノノ孫マコノノ衣イ襟エリノノ中ナカノノ習ナラ習ナラ

去クノノ衣イ襟エリノノ中ナカノノ習ナラ習ナラ

今イマノノ衣イ襟エリノノ中ナカノノ習ナラ習ナラ

梅吟 志元 如筑 曲枝 白地 如筑 曲枝 如筑 曲枝

山右之貴賤親疎と 下走門  
小服よふかど たら服と福  
又推して実れ杭築

九月

備前岡山

曲枝  
自他  
如笑

去り了年たは経たり 初月鶴

難れまき初りひ若 上干 厨青物

真市いふ敷心子集えよりま初ぬ

いふたは味縁うい 小倉とも

巡園の後

日也 備田  
麻布 女角  
下布 田角

花は若くあまをいふほど我の類  
氣とつりつるゆゑに難は毎月

甲一カをいふれはるるを

大保氏 排川  
番 社電

今十年<sup>上</sup>年<sup>下</sup>集れ免也 先より春  
多は月<sup>下</sup>あ代乃こといふなごの松  
之着こえつ之葉れ 根乃るる  
気心<sup>下</sup>あ代乃<sup>上</sup>幼有り 三つ<sup>上</sup>の且  
同根のまよ<sup>下</sup>新と<sup>上</sup>かざり<sup>上</sup>り  
神鳥<sup>下</sup>産と<sup>上</sup>難者<sup>上</sup>もの<sup>上</sup>之<sup>上</sup>来<sup>上</sup>同<sup>上</sup>士  
さ<sup>上</sup>ら<sup>上</sup>の<sup>上</sup>こ<sup>上</sup>の<sup>上</sup>ま<sup>上</sup>序<sup>上</sup>の<sup>上</sup>ま<sup>上</sup>形<sup>上</sup>れ<sup>上</sup>也  
宝舟<sup>下</sup>の<sup>上</sup>く<sup>上</sup>浅草<sup>上</sup>や 乙<sup>上</sup>年<sup>上</sup>所<sup>上</sup>  
去<sup>上</sup>り<sup>上</sup>の<sup>上</sup>ま<sup>上</sup>の<sup>上</sup>ま<sup>上</sup>の<sup>上</sup>ま<sup>上</sup>の<sup>上</sup>ま<sup>上</sup>  
鐘乃<sup>下</sup>礎と<sup>上</sup>打<sup>上</sup>ぬ<sup>上</sup>の<sup>上</sup>代<sup>上</sup>乃<sup>上</sup>ま  
る<sup>上</sup>向<sup>上</sup>の<sup>上</sup>推<sup>上</sup>と<sup>上</sup>初<sup>上</sup>の<sup>上</sup>の<sup>上</sup>代<sup>上</sup>乃<sup>上</sup>矢  
四隅<sup>下</sup>の<sup>上</sup>民<sup>上</sup>は<sup>上</sup>る<sup>上</sup>の<sup>上</sup>四<sup>上</sup>方<sup>上</sup>所<sup>上</sup>

備陽殿 山和水  
神尾氏 不秋  
情花堂 彦麟  
虎窪堂 笑角  
篋地 堂雲  
日 如泡  
日 文羽  
赤星氏 己角  
夜備毒 女也  
吉民 賀角  
日 妻  
今宵 松夕

初室より物あり  
 古きもの十二の巻  
 去りしや書きたる事あり月あり始  
 世の初より千里同風鏡餅  
 初鳥を志す神代は初卯  
 上服の内輪は客より是は  
 飾杖二つ月流  
 初節々上は神代は初卯  
 室あり年乃始也  
 初朝也卯乃初卯  
 女事と高世受門松乃難事統  
 ころも水と高世受門松乃難事統

西ノ角  
羽列長瀬出草堂  
 取角

初日ト  
口口口堂  
 獲角

同管堂  
 樓角

夕暮首堂  
 觸角

日吟月堂  
 竜角

日雪首堂  
 雲角

留角  
 桔梗

初節々上は神代は初卯  
 虎貫

室あり年乃始也  
 工鶴

初朝也卯乃初卯  
 常任  
 露吟

女事と高世受門松乃難事統  
 常任  
 蝸牛

ころも水と高世受門松乃難事統  
 上列草  
 動角

吟天

笑  
 笑顔より始り  
 永春のし初七  
 初卯  
 月と  
 遠る事  
 月松の夜  
 記す  
 君の徳

子心堂

笑顔より始り  
 角鼠

永春のし初七  
 待鳳軒  
 毒砂

初卯  
 二葉軒  
 檀風

月と  
 亥范軒  
 柳抄

遠る事  
 柳枝軒  
 鼠子

月松の夜  
 宮庫  
 左見

記す  
 可吟

君の徳  
 流水

君の徳  
 直水

君の徳  
 筒水

君の徳

絹のりきき上下

裏白の白くはれ初

今と昔の事

中軍の旗

手よりつぎ

足初の白馬

清初の子

親指の指のえ

厨子月の腰

いね

心

羽

日

御落

日

吟葉

日

寒柳

日

菅垣

日

葵扇

日

古竹

日

丹之

日

竹水

日

荒伯

日

知及

日

如流

當年の初

當年の帽

當年の

當年の

當年の

當年の

當年の

當年の

當年の

當年の

當年の

當年の

日 玄泉

日 三行

日 三行

日 三行

日 三行

日 三行

日 三行

日 三行

日

御落

日

吟葉

日

寒柳

日

菅垣

日

葵扇

日

古竹

日

丹之

日

竹水

日

荒伯

日

知及

日

如流

日

東雲

日

南指

日

大丸

ありりと七福神の御年玉  
 尊の人の御慶多し 初冬  
 穂俵と草子飾りり白鬘  
 紅境の御物とてとてはとて  
 赤御印の御物とてとて  
 急須の御物とてとて  
 神の御物とてとて  
 煉とてとてとて  
 石の下女顔の御物とて  
 上下の御物とてとて  
 八雲の御物とてとて  
 大腹の御物とてとて

日 六尔  
 菅原 晋月  
 松葉  
 狐狩  
 四濁  
 梅吟  
 原 童水  
 震山  
 免脱  
 小田原  
 外務田  
 数文

吟

春ははる門の平公の梅と女鶴  
 今御梅の御物とてとて  
 初月新の御物とてとて  
 今皇宮の御物とてとて  
 今御梅の御物とてとて  
 今御梅の御物とてとて  
 今御梅の御物とてとて  
 今御梅の御物とてとて  
 今御梅の御物とてとて  
 今御梅の御物とてとて

忍仁平氏 柯負  
 小御 惠志  
 尾陽 如氷  
 鳳琴亭 呂角  
 深糸  
 柳紫  
 仲幹  
 直松  
 一方  
 旌言  
 無吟

忠孝のこころのけしき 射初  
一二三五六七八九十

さかん酒乃方向舟石家初  
法乃三丁をきし

まのこころの酒乃空は初  
門のこころの明は初  
花鳥堂の梅  
徳隣堂の梅  
景吉堂の吉記乃初  
老徳堂の梅  
遠徳堂の梅  
初徳乃富士の根乃初

三福  
銀河

幸

西岸

連和堂

逸士

謹自堂

緑賞

徳隣堂

孤全

普堂實名堂

不徑

花鳥堂

初志

吟月堂

松見

菴月堂

草

晴風

日

道南

伊徳

嬰角

日

始陽

日

而已

日

耕堂

日

一夜

肥後

丹夕

日

快字

日

鉄仙

備前

少工

駒込

茂林

まのこころの酒乃空は初  
門のこころの明は初  
花鳥堂の梅  
徳隣堂の梅  
景吉堂の吉記乃初  
老徳堂の梅  
遠徳堂の梅  
初徳乃富士の根乃初



吟太

この物よこしを待。初氣

助也 奉之

とくも肩稜はは均視も水より

梧秋

昔帝のゆ衣の指れかしのま

竹堂

風よりかた位おしく小まは直

李寄

佐りの神の天カド中しと影の梅

日 正令

書初す言方と能く上り難

一書

はくしと定まはる初日

席書

解とまのるもまはる 松水

廿松

寄月花とこの母かきりし松

全

積りし成天

八分は端端かきりしつらぬのま

尾集 一書

命も毛筆しつらぬのま書初

常吟

吟

中作は名をあらとくしてとる衣初

其意

合をこくや浦のいれかきしつらぬ

笑山

ち教るもつねる 新

席口

肩の稜とこのまはるはく重なり

浦水

仁義のまをら 月より

他楽

其厚くまは所かきりし

玄留

つねいしとまはる

二袖

万葉の中作はる所入りしと書と

春尖

琉球が産産麻こつと書と死のま

其白

父母はるりしと書と死のま

中村 瓢水

新物言はる落塔(父母乃福書中)

信初 偷用

うしと書と死のま

閑鴨

吟小

氣血盛なり目精なり華好  
久々のいりまじ

吟

と春の如く物に極まり七十五  
初春の足つ周りりる如

子梅雪を袖乃ききききき

梅干と落葉の白の朝の  
元月すのの鷹乃

甲しめれ

仁乃まじれんま取つととまじり

これと並に肩に標を為し厚ははみ

米乃のまじり白いもふ飾り

米乃まじり八七九乃老まじり

日清堂

日

肥後終下

不磷  
草也  
梅舟  
楓志  
彦為  
茂丸

藤了

弦房

上列右胡

長南村

紅翠  
催風  
雁鐘  
晴久

世ニ  
東方朔

江戸は佳く今十年十のり  
はつとまじり十八公は佳り  
東方朔ハ十か下り八百の飾り  
如排

お輦いさ記乃まじり今朝の指

かこり岸乃まじりもまじり

宵乃四門誰まじりあまの物まじり

千長く地帯り居能く園がまじり

卯乃まじり車向よりし物め梅

まじりまじりいまじり

つね乃佳乃まじり

書初乃亀乃墨形

老乃まじりまじり

上列破

法橋妻

登月堂

信水氏

孤谷  
龜  
籬首  
九角  
鼠  
壽  
松弓  
竹水  
世師  
松水

身軽なる世にゆくまゝ年

### 羽笏十二所歳且組合

公室なるがどいれど 初月乃る也

雲と下馬と下馬は 月影

梅の逢ふ由の蝶の暮暮々

浪の子もくもるは 初春

麻上下乃るも 毛凡

横窓の柳影のよこ 窓のく

初春の波のつらきまもとられり

毛の老たは知函物と 白紙

くつらとくく 脆とく茶籠

日 貞月

櫛堂 冬角

久保田 諫

風鳥堂 空角

冬角

冬角

諫

空角

冬角

吟大 吟小

信房や千々々もくく 初茶調平

何れ梅をけ 眠り 夢に 餘り 花

門並なれり 仁義とくく 朝のま

七福乃る至十 茶籠 羽子のま

屑を種なり 咲き 雲を 苺の 葉

也 香なり 花は 世に あり けれ

椒酒のよき 五七下とくく 大膳

四つ羽の子 盆代 下 飛

薬入の 薬師と 屑を種や 追くも

八分綴とくく され 初春 永り 思

男 窓のく 春の 白と 逢 満

有 船月 四つ あり 春 月 七つ あり

那 一とく 月 月 八つ あり 春 月 七つ あり

女

宝水

松葉

可風

菱角

与世

冬角

冬角

空角

柑々しと好経りよのあハ 山椒皮

文角

冷精りよのりしと玉を張る系

空角

よりイタる花の葉は酒のし

他より下はあはちよ水川

雲流り如香のしと流母のく

空角

しとくも麻の葉は酒のし

文角

よの好り酒の月より 何さ力

唐の好り酒の葉は酒のし

知のちラカしと葉の葉は酒のし

小見を五七十臣 仰一毛角

空角

よのしとくも麻の葉は酒のし

よのしとくも麻の葉は酒のし

祝のあえはしとくも麻の葉は酒のし

汁をよのりしとくも麻の葉は酒のし

文角

歳暮

厄拂い世のあはしとくも麻の葉は酒のし

魚

陳の玉の葉は酒のし

言のちよのりしとくも麻の葉は酒のし

空角

祝のあえはしとくも麻の葉は酒のし

二十斤の糧拾い初りり年終り

被電

是のあえはしとくも麻の葉は酒のし

花のあはしとくも麻の葉は酒のし

錦角

このあえはしとくも麻の葉は酒のし

このあえはしとくも麻の葉は酒のし

排川

中野... 水ぞ顔... 内井... 吾も... 手... 奉... 古れ... 楓... 寺...

行人寒ノ入秋

山梨 尾角 出角 松夕 急及 不竹 不青 菅 梅吟 架 共首

月... 之... 昔... 一... 言... 手... 五... 何... 傳...

奏輜

ふ... 草

不角

歸角

中行 瓢水 書叔 鬼腰 専志 伴目 首丸

追加歳且歳暮混雜

舊事集 一 遠園也

言イホウ 三

浅草

栗角

急しし年々如相之由長久

小法 長閑

飾り行明の環る時清風

本筋 深窓

屏風穂枝嫁かじり心と新

忍 梅言

年々言と依しりし詞形

日留佳 梅月

難き物心花と心花の花

日肥佳 梅水

しとおの梅年は一葉とせり

日枯佳 和言

儒学よく尚新しとおの

會津 軒諷

事初は遠園とまの事

啞吟

子見く何の夜道とく月

しし

年徳よ美分りし

上高佳

非用

飾り梅を花架いりし

三

夜と包曲とらりし梅夜

三

流珠人帰

三

毛唐人眼不皮つる

李答

御之服の

京

石初る御信

柳月

流珠も此の勝る年

三

